

新刊のご案内

極地研  
ライブラリー

# 南極海に生きる動物プランクトン

—地球環境の変動を探る—

国立極地研究所 名誉教授

国立極地研究所 教授

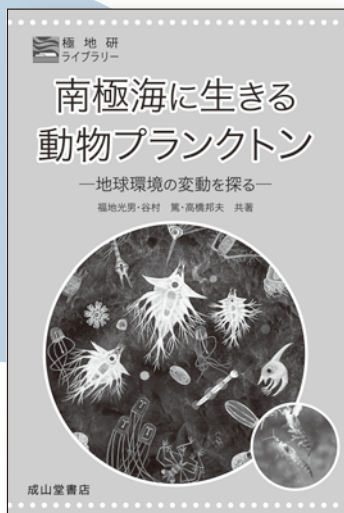
国立極地研究所 助教

著者 福地 光男・谷村 篤・高橋 邦夫



魅惑の  
プランクトンワールドへ  
ようこそ!

なるやま君



四六判/224頁  
定価: 本体2,400円(税別)

本書を薦める

白石 和行 情報・システム研究機構 国立極地研究所長

オホーツク海の人気者、「クリオネ」が動物プランクトン的一种であることを知っているだろうか。本書は、国立極地研究所の生物圏研究グループの海洋生物研究者によるプランクトンの入門書であり、一般になじみの薄いプランクトン、特に動物プランクトンの興味深い生態がくわしく述べられている。

プランクトンが身近に感じられるようになるだけでなく、プランクトンが環境変化に対して素早く応答することから、生態系の変化の指標として注目されていることが、わかりやすく解説されている。同時に、地球環境の変化を受けて、その存在が脅かされていることも強調されている。

こうした研究成果は、長い時間をかけて地道に観測を続けてきたからこそであることがよく理解できる。

極域の海で展開されている研究の最前線に、若い読者が興味を持って取り組んでもらいたいという著者らの気持ちが伝わってくる好著である。

藤井 理行 国立極地研究所名誉教授

南極海に生息する小さな動物プランクトンを、海洋生態系・海洋環境、南極の海氷下面に広がる特異な生態系、温暖化や海洋の酸性化など地球環境変化との関連など、大きな視点でわかりやすくとらえた好著である。また、南極の海洋生物の観測法、国際連携の重要性、今後の課題などにも触れており、南極の動物プランクトン研究の入門書あるいは教科書とも言えるていねいな内容にもなっている。著者はいずれも、南極海での航海観測さらには昭和基地での越冬観測に参加し、動物プランクトンの研究に打ち込んできた第一線の研究者である。また、日本の南極観測は、世界に例を見ない40年にもわたる動物プランクトンのモニタリング観測を実施してきた。本書は、南極でのこうした研究観測の現場から明らかとなった成果を中心に、まとめられている。南極、プランクトン、海氷生態系、地球環境変化などのキーワードに少しでも関心を持つ人には、一読を薦めたい。

“流水の妖精”クリオネに  
存亡の危機!?

南極海にすむ動物プランクトンの  
多様な生存戦略と、  
そこから見えてくる地球環境の  
将来を徹底解明!!

同時発売!



国立極地研究所南極観測センター 編  
四六判・並製/256頁/定価: 本体2,400円(税別)

成山堂書店

